

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2374500607		
法人名	株式会社 はるすのお家 尾張旭		
事業所名	グループホームはるすのお家 尾張旭 燦々		
所在地	尾張旭市庄中町2丁目4番地8		
自己評価作成日	平成30年8月1日	評価結果市町村受理日	平成30年10月18日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/23/index.php?action=kouhyou_detail_2018_022_kani=true&JigvosvoCd=2374500607-00&PrefCd=23&VersionCd=022
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人『サークル・福寿草』
所在地	愛知県名古屋市中区三本松町13番19号
訪問調査日	平成30年8月17日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

できることをしていただき、一緒に作業を行うなど活動ができている。
 それぞれが自由に生活できる環境づくりをしている。
 入居者の要介護度が高くなるに伴い、出来ることは少なくなっているが、日々の生活の中で本人の出来る事やわかることを考えて、ひとつひとつ支援につなげている。
 自由に外出できるわけではないが、玄関を施錠せず、リビングも掃き出しの窓になっていることから、洗濯物を取り込んだりする日常的な外に出ることは出来ている。
 地域の中での暮らしを行うことで、地域の人たちに介護施設を身近に感じてもらえるようにしている。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

利用者一人ひとりが、ホームのゆったりとした生活空間の中で、その人らしい毎日を継続することができるよう、日常的に職員間で利用者に関する意見交換を行いながら、一人ひとりの思いや意向等に合わせた支援に取り組んでいる。毎日の食事作りや洗濯等の家事の際には、利用者もできることに参加しながら、ホームでの生活が前向きなものになるような支援が行われている。利用者がホームの玄関から自由に外に出て、洗濯物を干したり取り入れたりする取り組みも行われており、職員間で見守りを行いながら利用者が日常生活の中で圧迫感を感じないような支援も行われている。また、ホーム管理者からの働きかけを行いながら市内のグループホームとの交流の機会が実現しており、職員が相互にホームを訪問する等、双方のホームの運営への反映につながるような取り組みも行われている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印		項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

〔セル内の改行は、(Altキー) + (Enterキー) です。〕

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価		
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
I.理念に基づく運営						
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている。	リビングに掲示してある理念を目を通して日々、心がけるようにしている。 利用者と外出する時やエスケープ時の協力を考えると地域に溶け込んでいると考えられる。	法人の基本指針にも合わせながらホーム独自の理念をつくっており、定期的に職員間で唱和する機会をつくり理念の共有につなげている。理念に「共生」、「共助」の言葉を盛り込み、利用者がホームで活動的な生活につながることを目指した内容となっている。		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している。	散歩、買い物へ出かけており、挨拶をしている。挨拶をしてもらえる。 ご家族や、近所の方から野菜を頂く。 町内会に加入し、行事の案内をもらう。	日常的に利用者と外出する機会をつくり、近隣の方と挨拶を交す等、地域に方にホームを知ってもらうような取り組みが行われている。また、ホームで子ども110番やスクールガードへの登録を行う等、地域貢献につながる取り組みも行われている。	地域の方との交流については、ホームからの働きかけが行われているが、交流の範囲は限られている現状もある。ホームからの継続的な交流の取り組みに期待したい。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている。	子供110番の家に登録 スクールガードの登録 地域の中で生活することで、暮らしぶりを日常的にみてもらえる。 地域貢献については模索中			
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている。	運営推進会議を通じて、家族の面識が高まっている。 実地指導の報告など、市の担当者から行ってもらっている。	毎回の会議に市職員や地域包括支援センター職員の参加が得られていることで、定期的な情報交換等が行われている。また、複数の家族の参加が得られている他にも、会議を通じて家族との交流の機会をつくる取り組みが行われている。		
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる。	事故報告書の提出。運営についての疑問点などは随時確認している。 情報共有できる場や機会への積極的な参加をしている。	管理者からの働きかけもあり、市内のグループホームとの交流の機会がつけられ、市の福祉施策の推進にもつながっている。地域包括支援センターが開催している地域ケア会議にもホームから管理者が参加しており、情報交換等につなげている。		
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	センサーをもって、ロングサイドレールの使用を最大限に減らしている。 身体拘束がないかなど毎月のミーティングで意見を聞いている。 勉強会は年に一度実施している。 必要に応じて、入居者が臥床してからの上まめな訪室を行い事故防止に努めている。	身体拘束を行わない方針のもと、ホーム内の玄関等は日常的に開放しており、利用者が外に出て過ごす機会がつけられている。また、定期的な検討会議を実施しながら、職員による利用者への対応に関する注意喚起等にもつながっている。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている。	適宜研修を受け、職員相互の注意喚起を行っている。 勉強会は年に一度実施している。 スタッフ間で注意を心がけている		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している。	権利擁護については年に一度の勉強会の実施をしている。 活用している入居者もいる。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている。	入居時には家族の疑問等に相談に乗るようにしているが、入居を急ぐケースの場合は後手になることもある。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。	ご家族からの意見などは、上司に報告を行い次回の面会時などに返事をする。希望を伺うなどしている。 玄関に意見ボックスを設置しているが、近年使われることはなく、家族から直接意見を頂くことが多い。 日常的にご家族からの希望や意見は伺うことができています。	年1回の交流会の他にも日常的に家族との意見交換の機会をつくり、要望等をホームの運営に反映させる取り組みが行われている。 毎月のホーム便りには利用者一人ひとりの状況を記載しており、利用者の状況を報告している。また、ブログの更新を随時行う取り組みも行われている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている。	利用者の細かいところに気づけるように、意見交換を行えるようにしていきたい。 会議、ミーティングを通しての意見の徴集。 会議に意見を伝えている。スタッフ間で相談しホーム長に伝えている。	毎月の職員会議を実施し、職員からの意見がホームの運営に反映できるように、管理者を通じて運営法人に報告されている。また、管理者による定期的な個別面談が行われており、職員一人ひとりの希望や要望等の把握につなげている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている。	職員同士助け合うことができるように努めている。 毎年の昇給、処遇改善加算など職員への還元もできている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている。	年に数回職員と面談し、個々の目標設置などを一緒にしている。 研修での学びを、働きながらつかんでいくことができる。 キャリアパス制度に準じて研修への参加を推奨している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている。	研修参加の機会を増やした。 地域の事業所との研修交流会などを行っている		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている。	入居前には、関係者の意見を聞きながら支援の大筋を決めるが、入居数日の職員との関わりの中で必要な支援を明らかにしていくようにしている。本人が生活に慣れるまでは適度なコミュニケーションを持つようにしている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている。	入居時には「家族向けセンター方式」の用紙を用い、家族の意向を確認している。 家族によっては記入をしない方もいるため、面会の際などに話を伺うようにしている。家族からの困っていることなどもうかがうようにし、報告をしている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている。	本人にとって必要な支援を考え、可能な限り対応するようにしている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている。	本人の「やろう」と思う気持ちが引き出せるように働きかけている。 本人のやる気を引き出せるように努めたいと思っている。 苦手なことなども把握してできることを増やせるように支援している。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている。	家族の立場、関係性を考慮したうえで、その入居者に必要な関わり支援と一緒に出来ていると思う。 面会時に外出してくださる家族もいる。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている。	面会時に家族との交流がある。 友人が面会にみえる人もいる。 面会に来られた方への情報提供や交換を行っている。日頃の会話の中に今までの生活についての話題を出している、	入居前からの関係継続については徐々に困難になっているが、利用者の中には友人、知人がホームに訪問する等の交流が行われている。家族との交流の継続にも取り組んでおり、ホームからの働きかけも行いながら、家族と外出する等の機会をつくっている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている。	同じ空間で暮らす中で好き嫌いはあっても、共助の関係を保ち暮らしていると感じる。 スタッフが間に入るなどトラブルを避けている。 支援の結果ではなく、一人一人の生きる力がしていると感じている。 入居者同士話をしている姿をよく見る		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている。	退居後も相談を受けたり、足を運んでくださるご家族も少なくない。 退居後にも年賀状などが送られてくる。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	利用者の話を傾聴しそこから情報収集、職員同士の共有につなげている。 変化や言動把握し、申し送り会議で検討している。	アセスメントの際には、家族にも協力をお願いしながら利用者の意向等の把握につなげている。また、職員間で毎月のカンファレンスの機会をつくり、利用者に関する情報の共有と日常の支援につなげる取り組みが行われている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている。	生活史を把握の範囲内で記載している。 入居時に家族に「家族向けセンター方式」の用紙への記入をお願いしている。 入居後も話を聞く機会があった場合には追記をして共有している。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている。	その人に会った暮らしの支援が出来るように、表情、言動、様々な情報から把握に努めている。 変化があれば報告し、ミーティングで検討をしている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している。	介護計画やモニタリングについて家族などへの説明をして承いただいている。	介護計画を3か月で見直しを行い、モニタリングについても介護計画の見直しに合わせて職員間で意見を交わしながら実施している。また、利用者毎に記録用紙を工夫することで、介護計画の内容の共有と日常的な支援内容のチェックにつなげている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている。	介護記録を色分けしていたが、近日は色分けて記入されないこともある。 いつもと変化があるときには色を変えて記入をしている。 ヒヤリハットの記入や申し送りの活用		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる。	サービスの運用方法や個々の対応で本人・家族にあったサービスになるようにしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している。	住所地や、施設所在地の地域資源を活用し、満足された結果、長期間の入居生活ができている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している。	かかりつけ医によく把握をしてもらっている、本人、家族の希望を入れ、適切な受診方法で適切な医療が受けられ、治療が続けられるよう支援している。 入居時にかかりつけ医の選択をする。 往診も含め、適切な時に適切な医療を受けられている。	協力医と日常的に情報交換を行う機会をつくり、利用者の健康面に関する柔軟な連携につなげている。受診についても家族と連携しながら必要な支援が行われている。また、入居前からのかかりつけ医の継続についても柔軟な対応が行われている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している。	職場内に看護職は配置していない。 往診の際などに相談に乗ることもでき、心配事などは聞くことができる。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院に関しては、退院時の受け入れなどの伝達がうまくいかないことがあった、入院時には安心して治療を受けられるように情報提供を行い、退院時には病院関係者からサマリーを受け取るなどしている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる。	急変時には適切に受診やその援助を行っている。 入居時に家族の意向確認を行う。 入居後も、身体状況の変化に合わせ家族との話し合いの機会を持ち、対応に取り組んでいる。 重症化した場合は家族との連絡を密に取っている。	利用者のホームでの看取り支援についても対応している。利用者の中には協力医の支援も得ながら、ホームで最期を迎えた方もいる。利用者の身体状態等に合わせた家族との話し合いが行われており、ホームで支援可能な内容の確認等が行われている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている。	緊急時は状態確認を行い、必要力所に報告をするということで周知されている。 マニュアルがあり、時々目を通して、状態確認をしてホーム長に報告している。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている。	避難訓練後にはミーティングで今後に向けての話し合いを行っている。 災害時の避難訓練は実施しているが、職員全員が対応できるかという難しい部分がある。	年2回の避難訓練を実施し、夜間を想定した訓練や通報装置の確認も行われている。 ホーム内の複数の場所に水や食料等の備蓄品の確保が行われている。地域の方との協力関係については、ホームの継続したテーマでもある。	非常災害時における地域の方との協力関係について、ホームからの働きかけを行う等、ホームの継続的な取り組みに期待したい。

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている。	居室のものの配置など扉の開閉まで本人の好みや主張を大切にしている。 人生の先輩として尊敬をもって接している。 敬語ではあまり話ができておらず、出来る限り失礼の内容に話をしている。	「共生」、「共助」の基本理念を職員間で確認しながら、利用者を尊重した対応に心がけるように取り組んでいる。職員に対する接遇に関する研修の取り組みの他、独自に明るい職場づくりを目指したルールを共有する取り組みも行われている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている。	小さな選択を日常的に働きかけている。 本人の意思が伝達できなかったりする場合 には本人の想いをくみ取って言葉がけしている。本人からの表出しやすい問いかけをしている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している。	各入居者マイペースに過ごしている。 職員が自分勝手に決めないで、本人たちに併せて支援できるようにしている。 職員の都合になっていることも多いが、希望に沿った支援を行うように心がけている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している。	衣類の希望を聞いたり、必要に応じて一緒に買い物に出かけることを実施している。 2～3か月に1回は訪問美容を受け、毛染めをされる方もいる。 1～3日に1回の入浴をしている。服装も気を付けている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている。	買い物、献立を決めることなどから一緒に行うことで食事を意識した生活を支援している。 メニューや味付けなど変化に富む食事になるよう工夫している。	利用者の好みや嗜好等にも合わせてメニューをつくり、利用者と一緒に近隣のスーパーへ買い物が行われている。利用者も調理や片付け等に参加し、食事の際には職員も一緒に食事が行われている。利用者に合わせた食事形態の提供も行われている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている。	体重測定を2回／月実施。 水分摂取量の確認を行っている。 水分量が少ないと思うときはお茶を提供している。飲みやすい飲料を購入している方もいる。 食欲が低下している場合には本人が食べられそうなものを購入し提供することもある。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている。	口腔ケアは、起床時、毎食後に行っている。		

7/9

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている。	本人の排せつパターンを把握して援助している。 時間を決めて誘導する人でも、状況に応じて早めにするなど対応をしている。本人にとって何が一番良いかを職員と、時に本人と話す。紙パンツの利用を希望される場合はしてもらい、清潔の保持にも努めている。 職員同士相談したり、ミーティングの場で意見を出しおむつの使用を減らすなど必要に応じた支援をしている。	利用者全員の排泄記録を残しており、職員間で排泄に関する情報を共有しながら、一人ひとりに合わせた排泄支援に取り組んでいる。また、協力医とも排泄面で情報交換を行いながら、排泄に関する医療面での連携や対応も行われている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる。	水分摂取、野菜の多い献立をしているが便秘の方は多く、下剤を内服される方も非常に多い。 水分を多くとっていただいたり、運動をしていただいている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている。	職員のタイミングで声をかけているが、本人の気持ちや意向も尊重している。全員ではないがその人が嫌な思いをしないようにタイミングを計っている。 1回／二日の入浴をしている。 菖蒲湯、ゆず湯など介護施設定番が行っている。	2日に一回の間隔で入浴ができるように、利用者の中には夕方の時間に入浴する等、希望等にも合わせた対応が行われている。身体状態に合わせた職員複数での介助を行い、入浴を楽しんでもらう取り組みの他、季節に合わせた柚子湯や菖蒲湯等も行われている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している。	日常的に、横になったりソファでウトウトしたり。 夜間の不眠がない限りは自由に過ごしている。 日中の日光浴なども心がけている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている。	薬剤師、医師ともに何かあった場合には相談をしている。 また、薬の変化は必ず職員に周知している。 処方箋を確認するようにしている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている。	歌を歌ったり、ご飯の支度をしながら話をしている。 歌、塗り絵、調理、外の仕事など。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している。	喫茶店や買い物に出かけている。 「お出かけ」だけでなく、戸外の様子が変わるよう声をかけたり、「閉じこもっていない」雰囲気になるような関わりをしている。	利用者が日常的に外出することができるように日中は玄関を開放しており、散歩や近隣にあるスーパーへの買い物外出が行われている。また、独自の取り組みとして「今月のお出かけ表」を作成し、利用者全員が外出の機会が得られるような支援が行われている。	

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している。	金銭管理を個人でしている入居者がいない。 お小遣いを預かり、施設で支払いをすることが多い。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている。	携帯電話を持ち込まれる方はいない。 年賀状のやりとりをしている方もいる。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている。	施設全体、車いす2台が通れる広さになっている。 衛生的で匂いも感じない。 互いの関係性の中で、空間を共有し生活している。 ひとりにとっていいものが他の誰かにとっていいものでないことも多くあり、職員が介入しながら生活してもらっている。 大きな音を立てないように気を付けている。	ホーム内は広い空間が確保されている他にもリビングの窓が大きいこともあり、利用者が日常生活の中で圧迫感を感じないような配慮が行われている。通路にもベンチを配置し、好みの場所で過ごすこともできる。また、リビングや通路の壁には、飾り付けや写真等の掲示も行われている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている。	施設内にリビング、居室以外にも椅子が設置しており、それぞれが過ごしやすい場所で自由に過ごしている。 折々にくつろげる場所が用意されていて自由に使える。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。	本人が使いやすい物を使用し、本人の使い慣れたものがあればご家族に相談し、もってきてもらっている。 本人に必要なものは都度報告している。 本人が整理整頓できないものもある。	居室には、ベッドの他にも収納スペースも設置されていることで、車椅子で生活している方も居室内を広く活用することできる。利用者、家族の意向等も確認しながら家具類や趣味の物等の持ち込みが行われており、利用者に合わせた居室づくりが行われている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している。	安全な自立はとても難しいが。 一人一人がやりたいと思う瞬間を損なうことがないように関わり支援している。		